ISSN 1884-7803

Language & Literature (Japan) 執筆者索引

（「研究論文」および「研究ノート」）
第1号（1992）— 第 22 号（2013）

＜特別会員＞

山田　幹郎（2013）第 22 号、Thomas Swynnenrton 序説.

＜正会員＞

相川　由美（1999）第8号、英語テクストにおける定冠詞 the の特性と結束性.

天野　純子（1993）第2号、*Middlemarch* における mores と morals.

Amano, Junko（天野純子）（1994）第3号、The Suspension of Consciousness in *Between the Acts*.

天野　純子（1995）第4号、The "tunnelling process" —ダロウェイ夫人』における時間感覚 —.

_____（1999）第8号、未完の小説『サンディトン』にみるジェイン・オースティンの新しい視点.

_____（2004）第 13 号、歳月再読.

Kurosawa, A. Junko (2009)（黒澤純子）第 18 号、The Necessity of English Education Training for Japanese Primary School Teachers.

_____（2010）第 19 号、Crucial Issues for Implementing "English Activities" to Acquire Communication Comprehension in Primary Schools.

黒澤（天野）純子（2011）第 20 号、小学校外国語活動（英語活動）を担当する教員の研修講座について：カナダ、ブリティッシュコロンビア州におけるフランス語研修講座を参考に.

Kurosawa, Junko A. (2013) 第 22 号、Teaching Reading to University Students *Anne of Green Gables* as the Text.

安藤　洋平（2009）第 18 号、救済が意味すること — "The Other Side of the Hedge" の語りにおける男性性と不安の表象—.

井土　康仁（2009）第 18 号、二つのクフリーン像 — イェイツと運動家たちのクフリーン像をめぐって —.

_____（2010）第 19 号、カポーティ、移動する — フィクションとノンフィクションの間で —.

今井　加寿（1998）第7号、エレン・グラスゴーの「南部(サザン)淑女(ベル)神話」.

_____（1999）第8号、*Barren Ground* における女性の自立と土地の再生.

_____（2001）第 10 号、越境する悪女 — *They Stooped to Folly* におけるグラスゴーの時代意識 —.

_____（2005）第 14 号、フェミニズム作家エレン・グラスゴーと女性参政権運動.

今井　知子（1999）第8号、*The Fixer* におけるヤーコフ・ボークの変身.

_____（2000）第9号、*A New Life* における「再生」.

_____ (2001) 第 10 号、Bernard Malamud の *Dubin's Lives* ― 愛と孤独と死について ―.

_____ (2004) 第 13 号、Bernard Malamud の *The Assistant* におけるユダヤ社会の女性達.

今西　佑子 (2006) 第 15 号、英語・日本語に共通する「女言葉に反映される女性観」― 'Politeness'と関連して ―.

Urayama, Junko (浦山淳子)(2008) 第 17 号、Responses to the Porter's Depiction of a Near-Death Experience in "Pale Horse, Pale Rider".

榎本　暁 (1999) 第8号、語形成における語種の影響について.

_____ (2003) 第 12 号、日本人の英語のコーダ位置にある音に対する知覚能力について.

_____ (2004) 第 13 号、短い英文の聞き取りについて: gating method を用いての調査結果.

大井佐代子 (2009) 第 18 号、アイルランド短編小説に見る子どもの通過儀礼 ― オコナーの「初告解」、フリールの「僕の初めての罪」、ニ・グウィヴネの「教理問答試験」をめぐる考察 ―.

大蔵香代子 (1992) 第1号、『リヤ王』における＜真実＞ ― 媒体としての Fool と Mad Tom ―.

Oshima, Takako (大島隆子)(1994) 第３号、Facing Up to the reality ― "Escapism" in *The Professor's House* ―.

大島　隆子 (1995) 第4号、ウィラ・キャザーの「心のふるさと」― 初期の作品にみる理想郷の源泉―.

_____ (1996) 第5号、Willa Cather's Another Self ―'the world's having broken apart in about 1992' のテーマが語る 'enemy'―.

_____ (1997) 第6号、Willa Cather のヨーロッパと西部―フロンティアの女性像を通しての芸術的特質 ―.

Ota, Akiko (太田晶子) (1994) 第３号、Commented Bibliography ― Language Acquisition and Socialization ―.

_____ (1996) 第5号、Teasing as Language Socialization.

_____ (1998) 第7号、Problem in Second Language Acquisition.

太田　晶子 (1999) 第8号、アメリカ白人労働者階級の母子間会話にみられる Teasing Interaction ― 第一言語習得から公立小学校での英語教育導入を考える ―.

Ota, Akiko and Miyata Osamu (太田晶子／宮田修)(2004) 第 13 号、Review of "Identity and Communication" by Bernard Saint-Jacques. Intercultural Communication Studies vol 5. Aichi, Japan: Aichi Shukutoku University. 2002. pp.13-21. SBN-13440837. [研究ノート]

Kaneko, Teruyoshi (金子輝美)(1999) 第８号、On the Use of conceive and conceive of in Langacker's Writings.

金子　輝美 (2002) 第 11 号、"X is attributed Y" 構文についての一考察.

Kaneko, Teruyoshi (金子輝美)(2003) 第 12 号、Notes on the Progressive in Langacker's Cognitive Grammar.

金子　輝美 (2006) 第 15 号、行為解説の形式 ― 進行形、完了形、単純形 ―.

_____ (2007) 第 16 号、学生はカタカナ語をどのように理解しているのか. [研究ノート]

_____ (2008) 第 17 号、構文とその意味 ― What are you doing her? の場合 ―.

_____ (2013) 第 22 号、英語の間接使役表現 ― He built his house を中心に ―.
Katsuno, Takako (勝野孝子)(1996) 第5号、A Study of Onomatopoeia: a sociolinguistic analysis.
_____ (1999) 第８号、Language Usage, attributes and social interaction found from the inconsistent data: a case study of Chinese Pidgin English.
河合 利江 (2000) 第9号、権力と結びついたカトリック教会への挑戦 ― クレイジー・ジェーン詩群におけるイェイツの試み ―.
_____(編)(2006) 第 15 号、20 世紀アイルランド詩を読む ― Michael Longley 選編 *20th-Century Irish Poems* から見たアイルランド ― [河合利江・河口和子・右高将宏・若尾 梓・大井佐代子・竹内梨絵子・森 彩香].
河口 和子 (1998) 第7号、『理想の夫』におけるワイルドのアイルランド性.
_____ (1999) 第8号、『真面目が肝心』における「アーネスト」の意味.
小塚 健 (1997) 第6号、*Absalom, Absalom!* における悲劇の二重構造.
_____ (1998) 第7号、William Faukner, *A Fable* ― 兵士、民衆の声なき声 ―.
_____ (1999) 第8号、*Absalom, Absalom!* における人種融和の契機.
Koyasu, Keiko (子安恵子)(1993) 第2号、A study of Arabesque in Edgar Allan Poe's Short Stories.
_____ (1994) 第3号、Tanscendental Heroes in E.A.Poe's Tales.
Sasaki, Yuumi(佐々木裕美) (1992) 第1号、Poor Whites as the Trigger of Tragedy in *Absalom, Absalom!* and *Light in August*.
_____ (1993) 第2号、The Two More Trickster Characters in the "Snopes Trilogy" (1).
_____ (1994) 第3号、Flem's Trickery in *The Town*: His Exploitation of Women (2).
_____ (1995) 第4号、The Doom Declares: the Death of the Trickster by the Hand of Mink Snopes in *The Mansion* (3).
_____ (1996) 第5号、Mink Snopes of *The Mansion*, Faulkner's Devoted Character (4).
佐々木裕美 (1998) 第7号、*Go Down, Moses* のむかしがたりのアイロニィ: "Was" を読む.
_____ (1999) 第8号、*Go Down, Moses* の昔がたり ― 最終章 "*Go Down, Mores*" の意義.
_____ (2005) 第 14 号、*Go Down, Moses* の昔がたり ― ライダー: 深南部のパンタローネ.
鈴木久美枝 (1993) 第2号、Is she 'an Unschooled Girl'? ― *The Merchant of Venice* の女性論.
_____ (1994) 第3号、シェイクスピア劇とジェンダーのエピステーメ ―『お気に召すまま』を中心に―.
高橋美由紀 (1994) 第3号、入門期の新中学教科書と communication 重視指導について ― クイズ・ゲーム的手法を取り入れた活動について ―.
_____ (1995) 第4号、初等教育における外国語教育についての一考察.
_____ (1999) 第8号、公立小学校における英語教育導入についての一考察.
_____ (2001) 第 10 号、国際社会に対応した小学校英語教育 ― アジア諸国の事例研究 ―.
_____ (2002) 第 11 号、「小学校英語活動の手引き」に基づいた「小学校英語テキスト」.
田中 由香 (1999) 第8号、ホモ・ソーシャル社会から女性のセクシュアリティへ ―『冬物語』小論.

中野　光夫（2007）第 16 号、リズム・マシンを使った効果的音読練習の実践 ― 絶対テンポ 116 理論をめぐって―.

Noto, Takaaki（能登隆昭）（1996）第5号、Poe and Emerson: In Quest of God.

能登　隆昭（1997）第6号、エマソンの神観の展開.

_____（2003）第 12 号、天使への志向 ― Edgar Allan Poe の超絶主義的傾向について ―.

林　　紀子（2004）第 13 号、*Pride and Prejudice* における保守性と進歩性.

_____（2005）第 14 号、*Pride and Prejudice* における和解.

平山千鶴子（2008）第 17 号、"Directive" におけるフロストの信念 ― "Waters" を通して ―.

_____（2013）第 22 号、Robert Frost の "The Death of the Hired Man" における "water" の重要性.

Horiuchi, Chitose（堀内ちとせ）第1号、Uses of the Present Simple Tense: Referring to a Specific Point of Time.

堀内ちとせ（1999）第8号、実践報告：英語の授業での映画利用法 ― 映画「フォレスト・ガンプ」を使った場合 ―（その1）.[研究ノート]

_____（2000）第9号、_____（その2）. [研究ノート]

_____（2001）第 10 号、_____（その3）. [研究ノート]

_____（2002）第 11 号、_____（その4）. [研究ノート]

_____（2003）第 12 号、実践報告「英語嫌い」に英語の勉強をさせる方法（その1）. [研究ノート]

_____（2004）第 13 号、_____（その2）. [研究ノート]

_____（2005）第 14 号、_____（その3）. [研究ノート]

_____（2006）第 15 号、_____（その4）. [研究ノート]

_____（2007）第 16 号、_____（その5）. [研究ノート]

_____（2008）第 17 号、_____（その6）. [研究ノート]

_____（2009）第 18 号、_____（その7）. [研究ノート]

_____（2010）第 19 号、_____（その8）. [研究ノート]

_____（2011）第 20 号、実践報告 「参加型授業」を目指して（その1）. [研究ノート]

_____（2012）第 21 号、_____（その2）. [研究ノート]

_____（2013）第 22 号、実践報告 英語と日常的に触れるために. [研究ノート]

Masugi, Rie（真杉理恵）（1996）第5号、A Contrastive Analysis of the English Aspect Marker, "Progressive" and the Japanese Aspect Marker, "－teiru", with a Perspective toward an Effective Way for Japanese Students to Acquire the English Progressive.

真杉　理恵（1997）第6号、談話の流れと逆行代名詞化現象.

Masigi, Rie（真杉理恵）（1998）第 7 号、Classroom Activities which Enhance Learners' Introduction-Ability in English.

Mase, Yoshihide（間瀬欣英）（1996）The Significance of Existence Deeper than Sorrow -- A Study of *Seize the Day* by Saul Bellow.

_____ (1997) 第6号、The Collapse of Household and Family as Reflected in the Works of Saul Bellow and Nobuo Kojima.

_____ (1998) 第7号、A Study of *Henderson the Rain King* — Insight based on the Old Testament —.

_____ (1999) 第8号、The Background of Saul Bellow's Thought and Ideas Expressed in *Mr.Sammler's Planet*.

_____ (2000) 第9号、Exploration into the Depth of Existence in *Henderson the Rain King*.

_____ (2001) 第 10 号、The Implication of Humbolt's Gift.

_____ (2002) 第 11 号、What *The Bellarose Connection* Connects.

Matsumoto, Kazuki (松本一喜)(1993) 第2号、Where Poetry Meets Politics — Yeats and Auden.

松本 一喜 (1994) 第3号、『お気に召すまま』における「運命」と「自然」.

_____ (1996) 第5号、『ハムレット』の神話的世界.

_____ (1997) 第6号、『じゃじゃ馬ならし』と父権性.

_____ (1998) 第7号、ヴィーナスの劇としての『十二夜』.

_____ (1999) 第8号、追憶の森・欲望の森—『奥に召すまま』小論.

Miyata, Osamu (宮田修)(1992) 第1号、Assessment of the New Course of Study for Upper Secondary Schools — Proposals for Foreign Language Education in Japan.

_____ (1999) 第8号、Emotive Adverbs: Reflections on English Translations of the Noh Play *Kagekiyo*.

森 陽子 (1994) 第3号、マレーシアにおける言語生活.

_____ (1996) 第5号、「アメリカ英語における女性語」調査ノート.

_____ (1997) 第6号、マレーシアとシンガポールの言語生活がもたらしたもの — 中国系国民の言語生活の比較を基に —.

Yamada, Kumiko (山田久美子)(1992) 第1号、Motherhood in O'Casey's Dublin Trilogy.

_____ (1993) 第2号、O'Casey's Adoration: *The Silver Tassie*.

_____ (1994) 第3号、The Irish Daughter in O'Casey's *Within the Gates*.

山田久美子 (1995) 第4号、Brian Friel の *Dancing at Lughnasa* における女の世界 — ダンスが表象するもの.

_____ (1996) 第5号、キャリル・チャーチルの『グランド。ナイン』— 現実と幻想の交錯.

_____ (1997) 第6号、キャリル・チャーチルとフェミニスト・シアター —『ヴィネガー・トム』における魔女の論理—.

_____ (1998) 第7号、キャリル・チャーチルとフェミニスト・シアター(2) — 権力構造のメカニズム—.

_____ (1999) 第8号、キャリル・チャーチルとフェミニスト・シアター(3) — Top Girls における構成と主題 —.

_____ (2000) 第9号、キャリル・チャーチルとフェミニスト・シアター(4) —『小鳥が口に一杯』と『バッコスの信女』における脱却と超克 —.

_____ (2001) 第 10 号、キャリル・チャーチルとフェミニスト・シアター(5) ― Seriou Money における 20 世紀のフェミニズム演劇の特徴 ―.

_____ (2003) 第 12 号、Conor McPherson の The Wier における「語り」の世界.

山本　幸一 (1999) 第8号、「主語上昇」について ― Langacker の認知文法の視点から ―.

_____ (2000) 第9号、「叙述的関係詞節」について ―Langacker の認知文法の視点から ―.

_____ (2001) 第 10 号、メトニミーの構造 ― メトニミーにおける隣接性の分析から ―.

_____ (2002) 第 11 号、英語指導における文法 ― 文法訳読とオーラル・コミュニケイションの連携に向けて ―.

_____ (2003) 第 12 号、メトニミーのメカニズムとその成立条件.

_____ (2004) 第 13 号、主体の拡張と換喩 ― 換喩の1タイプ ―.

_____ (2005) 第 14 号、「関連性」による意味拡張としての換喩.

_____ (2006) 第 15 号、シネクドキについて ― 比喩における位置づけと認知メカニズム ―.

_____ (2007) 第 16 号、英語の多義語指導について ― 認知言語学のネットワークモデルを応用して ―.

_____ (2010) 第 19 号、英語構文の効果的学習について ― 言語獲得理論・言語理論を参考にして ―.

_____ (2011) 第 20 号、言葉に対する意識化を考える英語指導 ― 日英対照分析と内部構造の透明化を通して ―.

_____ (2012) 第 21 号、高等学校におけるトップ・ダウン式英語授業:「文法・訳・説明」の意義.

_____ (2013) 第 22 号、高等学校での英語文法指導の工夫.

Yokozeki, Mitsuki(横関美津紀) (1999) 第8号、The Unheard Voices of Mothers and Women in Yeats's Solomon and Sheba Poems.

若尾　　梓 (2007) 第 16 号、イェイツの「あいまいさ」: "The Cap and Bells" の髪のイメージを通して.

_____ (2008) 第 17 号、イヴァン・ポーランド　代弁者としての女性詩人 ― "Outside History: A Sequence" を中心にて―.